

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

学校名	多久市立東原産舎東部校		
1 前年度 評価結果の概要	<p>・校内研究の推進により、共通理解のもと各教科で「東部校子育スタイル」が実践され、児童生徒の主体的な学びが促進された。今後は、学習過程の連続性を意識した授業づくりを一層進めるとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための工夫や改善を行い、学力の向上に努める。</p> <p>・教育課程に基づいた道徳科や「生と死を考える授業」等の計画的な実践、そして日頃の児童生徒との丁寧な関わりを通して、思いやりの気持ちや命を大切にすることを育成することができた。今後は、児童生徒がより主体的に他者を尊重しようとする態度の育成に努める。</p> <p>・特別支援教育の充実に向けて、計画的な研修会・会議の開催や日頃からの情報共有を進めることで、個々の児童生徒に応じた支援の実現に努めた。今後は、研修内容の充実や関係職員間の連携強化を進め、支援体制の質的向上を図る。</p> <p>・各教科領域において計画的に地域人材や教材を活用し、充実したコミュニティスクールの推進を図ることができた。また、PTA組織の見直しも前進した。今後は、持続可能なコミュニティスクールおよびPTA活動の実現を目指し、改善改革を推進する。</p> <p>・効率的な会議等の開催や部活動の地域展開等によって、時間外在校時間の縮減や年休取得の消化は前進した。今後は、さらなる業務改善を図ることで、働き方改革の推進を継続する。</p>		
2 学校教育目標	思いやりの心もち、学ぶ意欲に満ちた児童生徒の育成		
3 本年度の重点目標	<p>【1】主体的・対話的で深い学びの実現を図り、確かな学力の向上に取り組む。</p> <p>【2】児童生徒の活躍の場を広げ、自己肯定感を育てて子どもの笑顔づくりにつなげる。</p> <p>【3】「多久学」の推進を図り、怒の心(他者を尊重する態度)を育む教育に取り組む。</p> <p>【4】コミュニティスクールの推進を図り、地域住民と学校の信頼関係の構築(開かれた学校の実現)を目指す。</p> <p>【5】協働体制と研修の充実、業務改善を図り、教職員の笑顔づくりにつなげる。</p>		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○確かな学力の向上に向けて、基礎的・基本的な力を育成する取組の実践	○市内共通漢字テストの合格者(8割以上)の児童生徒を85% ○前期課程:単元テストの「知識・技能」の観点で平均90点以上 ○後期課程:到達度テスト70%以上	・以下の4つを朝の時間や、国語・英語の時間を使って取り組む。 ①デジタル百ます計算(1~6年生) ②デジタルタイピング英語(5~9年生) ③漢字の速習(1~6年生) ④熟語(1~9年生)
	○児童生徒が主体的に学び、思考力・表現力を高める授業の実践	○「東部学習スタイル」を、各教科で実践したと答える教師の割合100%。 ○もくもくタイム(自力解決の時間)やこだまタイム(協働的な学習の時間)を通して学習内容が理解できたと答える児童の割合80%	・学習の深化と定着のために東部学習スタイルを推進し、以下の2点について全職員で取り組む。 ①めあてを学習内容と児童生徒の学習状況から設定する。 ②「もくもくタイム」及び「こだまタイム」を設定し考えを交流させ、学習をまとめと振り返る時間を確保する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「怒の心をもって友だちや家族と接している」児童生徒の割合90%以上。	・家庭と連携して児童生徒の豊かな心を育むために、道徳科授業や人権集会、平和集会を計画的に実施する。 ・相手を尊重する心情を育むために、日頃から友達への正しい言葉遣いや態度を指導する。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「アンケートや教育相談及び日常のコミュニケーションなど機会をとらえて、問題の早期発見・対応に努めている」教師の割合100% ○「学校生活は楽しい」と感じる児童生徒の割合80%以上。	・日頃から児童生徒の観察に重点を置くことで、開発的・予防的な生徒指導に取り組む。 ・教育相談や学活ノートを活用し、児童生徒の相談しやすい環境を整える。 ・月に1度のアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応を図る。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・日頃から「認め・褒め・伸ばす」姿勢で児童生徒に接し、児童生徒の自己肯定感を高める。 ・進路説明会や職場体験活動、総合的な学習の時間等を通して、児童生徒が夢や目標をもてるように内容の充実を図る。
	○「生と死を考える授業」の取組	○授業や生活を通して、「命の尊さを学び、家族や友達を大切にしている」回答した児童生徒95%以上	・計画的に「生と死を考える授業」を実践し、児童生徒が命に触れたり考えたりすることで、命を尊重する態度を育む。 ・ふれあい道徳への保護者の参加や学級通信等のお知らせによって、家庭と命の尊さを共有し、一体となって取り組む。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・「保健だより」や「食育だより」などを活用して、保護者へ望ましい食習慣に関する啓発をし、「早寝・早起き・朝ごはん」の実現を図る。 ・「My弁当の日」を年間1、2回設定し、食の大切さを実感させる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。在校時間月45時間以下の割合80%以上。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・三部会制を生かした小集団による熟議により、計画的・主体的な業務遂行を行い、効率化と時間短縮を実現する。 ・長期休業を利用した年休や計画的な年休の取得を勧めることで、職員の心身の健全化を図る。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の支援体制の充実	○「児童生徒一人一人の個に応じた支援を行うことができた」と回答した教師の割合95%以上 ○「授業でわからないことがあったとき、先生や友達に助けられる」と肯定的に回答した児童生徒の割合:90%以上	・長期休業中に、特別支援教育アドバイザー、特別支援教育コーディネーターによる研修会を実施することで、個別最適な支援について研鑽を深め、実践につなげ、質の高い支援体制を保持する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○コミュニティスクール推進	○地域人材・教材の積極的な活用によるコミュニティスクールの推進	○地域の方との体験活動やボランティア活動を楽しんでいる児童生徒の割合90%以上 ○教職員の校区内行事や対外的な行事への参加を呼びかけ、1人1回の参加を奨励する。 ○「学校は各種便りやホームページ等を通して、開かれた学校づくりに努めている」とした保護者の割合80%。	・地域の各種団体との連携を深め、地域の人材・教材の活用を充実し、児童生徒会を中心としたボランティア活動を推進する。 ・行われる地域行事や対外的な行事の周知を行うとともに、多面的、多角的に児童生徒を見つめようとする教員の意識醸成を図る。 ・計画的に各種便りを発行するとともに、週1回以上、ホームページを更新する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育